

サービス状況調査票への意見（令和 6 年度図書館評価）

(1) 貸出・閲覧 サービス	<ul style="list-style-type: none"> 電子書籍小学生の利用について、ID パスワードが児童にいきわたり、活発に利用されるように各学校で使い方のレクチャーを図書館で、徹底しておこなってほしいです。 昨年の評価でも指摘したが、貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館には、それが揃っている。評価したい。 <p>蔵書については、豊富な資料群を収集し提供している。それを支えるのは、資料費であり、一定額を確保している点も評価する。今後も現状の水準を維持してもらいたい。</p> <p>また、電子書籍の提供も順調で、ログイン数も増えている。今後もコンテンツの拡大に努めていただきたい。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識してもらいたい。</p> <p>不登校児を対象とした電子書籍のリンク対応、また市立小中学校の児童・生徒のタブレットで電子書籍が読める取り組みには期待したい。なお、電子書籍では味わえない本の魅力もある。その点を子どもたちに伝えていくことも図書館の大切な仕事であることも抑えておいていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 蔵書資料数の多さ、充実した蔵書が府中市立図書館の魅力の一つである。様々な世代、興味・関心に応じられるよう、引き続き幅広い図書資料の所蔵に努めてもらいたい。 <p>一方で、充実した所蔵資料は読書に興味・関心のある人や、読む・調べる目的のある人にとっては魅力となるが、そもそも図書に関心のない人にとっては意味をなしづらいものである。蔵書の充実と併せて、子供・親子を対象としたイベント、学校での読書活動の充実に資する取組など、子供の頃から読書に親しむ機会を作ることが大切だと考える。</p> <p>また、話題の映画・ドラマ等に関連した特集など魅力的な企画の実施、広報・ホームページ等による積極的な発信など、一般の方が、府中の図書館に行きたくなるような働きかけも必要だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市が企画するイベントや事業があるときは、そのテーマに沿った 情報を積極的に広報するべく各種資料を網羅して、目立つところに展示コーナーを設けてはどうか。 <p>図書の貸し出しだけに限らず、来館することに楽しみがあるとする企画を考えることも時代の流れであると思う。（決して</p>
----------------------	---

	<p>他市の模倣ではなく、府中らしい企画を創造したうえで)</p> <p>他市（稻城市中央図書館）の企画例であるが、ハッピーマンデーと称して、月に一度第一月曜日は借り放題にする。</p> <p>お勧め本を袋詰め。「福袋」として（外からは見えないが子供向け。大人向けなど）対象年代に相応しいと思われる書籍や興味を持つだろうと想定して）袋ごと貸し出す工夫をしている。</p> <p>例えば10点など、規定の冊数を越える利用者には、館内のカフェの割引券を提供。などの工夫があると、通りすがりの市民が図書館に足を向けるような方策があっても良いのではないか。</p> <p>他市との共同利用協定は効果的で市民にも喜ばれると思うので、拡充してほしい。</p> <p>電子図書館は決してコスパが良いとは言えないが、24時間利用可能で 利用者の利便性が大幅に向上する効果もある。一方で利用出来る書籍や資料の数が限られている、端末やインターネット環境がないと利用できない、資料の保存ができないなどの不利な条件もあるので、思い切って、電子図書を活用する対象者を絞る検討なども必要である。 紙媒体の活用が多い現実を見据えての予算措置もあるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童を対象とした取り組みを高く評価する。 <p>不登校児童の問題は今後も多様化していくと考えられる。</p> <p>多様化していくなか、児童が外出せずに図書の世界に接することができることは非常に有意義であると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLPの中に電子図書館を置き、デジタル図書を読めるようにしたのは、とてもよい。 <p>居ながらにして、読むことのできるデジタル図書は児童の読書の量と質を保障するものだと思う。</p> <p>デジタル図書の活用は、時間をかけて丁寧に行うのがよい。良さは確実に伝わっている。</p>
(2) 予約・リクエストサービス	<ul style="list-style-type: none"> 現在スマホからリクエストをしていますが、使いにくいです。アプリを利用して、使いやすくリクエストができないものでしょうか。 リクエストの受付件数は、だいぶ減少している。Webによるリクエスト件数も減少しており、気になる点である。貸出点数が減っているので、それに連動した結果ではあるが、都立図書館等、他の図書館からの借用件数が約700件増えており、市民が望む蔵書構成になっていない可能性もある。 <p>遠隔複写サービスは、著作権処理のその後を注視し、引き続き実現に向けて対応してもらいたい。</p>

(3) レファレンスサービス	<ul style="list-style-type: none">府中出身。ゆかりのある方の専用コーナーを設置してほしい。相談件数は減少している。インターネット等で簡易な調べものは済むようになり、相談件数の減少は府中市だけでなく全国的な傾向である。ただ、インターネット等を活用しても解決に至らない事例も多く、そのようなことに対応できるレファレンスサービスの役割についてより PR してもらいたい。 今後、事例の分析などが行われるとよい。また、事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録が令和 5 年度、令和 6 年度と 0 件であった。パスファインダーとして公開できる事例もあるのではないか。 市民向けレファレンス講座の開催、職員向け研修会の実施は評価する。 評価コメントに含むかは検討するが、「利用者が自身で探す力がついた結果」という所管課評価がある。一因としているのでそのとおりかと思うが、個人的な見解としては、利用者の“探す力”がついたというよりも、インターネットや AI の進展によって容易に調べられるようになった結果ではないか。 現場にいると「インターネットでは出てこないので図書館に来た」という利用者もいる。ハイブリッドな情報活用で“探す力”的ある図書館員を求めている利用者もいると思う。オンラインでのレファレンスは時代の趨勢で効果的である。さらに拡充して来館者や利用者の増加につなげて欲しいと思う。 市民が誇りを持って、わがまちで愛されている図書館であると実感出来るよう、対面ふれあいなどサービス向上を図り、重要な存在となっていることを積極的に謳ってほしい。レファレンスサービスは図書館が提供できる専門性の高いサービスと考える。利用者自身の探す力がついてきた結果とも考えられているが、利用者自身ではどうしても偏った見方をしてしまいかがちである。レファレンスサービスについては、より周知をしていただきたい。レファレンス件数の減少は、生成 AI など ICT ツールの普及も関係しているように思われる。現時点の生成 AI では、事実でない情報も混在するリスクがあり、そうした限界を補う意味でも図書館のレファレンスサービスの活用が望まれる。こうしたことを市民に知らせることも重要だろう。市民向けレファレンス講座は、「調べ方」や「情報検索」のコツやテクニックを学んでもらうという重要な役割を担ってい
-------------------	---

	<p>るはずですが、それがストレートに伝わってきません。そう言うスキルを身につけるための講座であることをわかり易く示す必要があるでしょう。たとえば、「調べたい（隊）」とか「こんな見つけ方あります」とか、平易なキャッチを前面に押し出す方法もあります。そしてその回ごとに特集するテクニックやスキルを変えるなどの工夫も欲しいところです。</p> <p>また、テーマ設定は、一般教養講座的なものではなく、府中市が示す生涯学習の方向性に沿うことも必要でしょう（生涯学習の最重要拠点の一つです）。調べ方の糸口がなかなか見つからない重要なテーマがあるはずです。たとえば、コミュニティの活性化をどう展開するか等現代的で先進的なテーマ設定がほしいところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レファレンスの経験を積ませたい。児童の具体的な活用事例が知りたい。
(4) ビジネス支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生 100 年時代ということで、やりたいこと探求の高まりと共に、近年ではビジネスへの関心が高まっている。2018 年の副業元年を皮切りに、副業から複業も増えて、テレワークなど様々な働き方も増えている。起業支援から、特に連続倒産などの地域経済に打撃を与える事業承継の課題まで、幅広いビジネス支援が必要であり、特に図書館では中小企業や個人事業主向けの情報発信が必要であると考える。国全体で高まりを見せるリスキリング人材の育成や AI 人材育成について、またビジネスでの AI 活用はスマートビジネスのシステム開発も可能にしており、官民間わざにその技術を取り入れることで、働き世代の減少に耐えることに寄与すると考えられる。商工会議所や他とは違う、図書館独自のビジネス講座が増えたら、ビジネスへの関心とともに注目を集められ、利用人口の増加にも繋がると考える。 ・ 「しごと情報コーナー」のガイド表示や商工会議所や関連機関との連携によってチラシ等の配付強化に努めている点は評価したい。なお、チラシ等の配布に留まらない連携事業があってもよいのではないか。 <p>また、コーナーがありながらあまり目立たない。企画展示が同時に行われるなど、目立つ工夫が必要ではないか。</p> <p>ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。</p> <p>ビジネス講座の開催が好評であった点もよかったです。今後も継続して実施してもらいたい。</p> ・ ビジネス講座参加者の評価が高いことはすばらしい。担当職員の負担が過重にならない範囲で、講座の実施回数を増やすことも検討してはいかがだろうか。
(5) ハンディキ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア団体との協働が維持されており、適切な対応がなされている。宅配・郵送サービスも適宜行われていて評価したい。

ヤップサービス	<p>心身障害者福祉センター「きずな」で、布の絵本やさわる絵本の特集展示が行われたことも評価した。他の施設でも行えるとよい。</p> <p>今後もボランティアの協力を得て、サービスの充実に努めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はばたき」での展示を評価する。はばたきでもわかりやすく電子図書館利用を紹介していただきたい。 資料やサービスの存在を知らない市民が多いと思う。より多くの市民（特に視覚障害者等）に知ってもらうために、市内の眼科クリニック等の医療機関と連携して広報してはいかがだろうか。 <p>国の読書バリアフリー基本計画は、2025年4月から第2期がスタートした。府中市としても、読書バリアフリー計画の策定を検討していただきたい。</p>
(6) 多文化サービス	<ul style="list-style-type: none"> 外国語資料も若干ではあるが増えている。特集展示は、多文化サービスのPRになる。1回行われたことは評価するが、より利用を喚起するための工夫を今後も続けてもらいたい。 <p>外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃え提供されており評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 在留外国人の増加は国の想定の2倍ペースで増えて24年度末には約377万人、2024年の訪日外国人旅行者数は3687万人超と、日本のグローバル化はトレンドの一つである。図書館サービスについても、引き続き、多言語の対応の充実や、市民の方の国際理解を進める企画（多文化理解、語学等の講座、館内カフェで外国料理の提供など）に取り組んでほしい。 「やさしい日本語」を活用した取り組みも進めたいと思います。
(7) 学習・文化活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、多彩な講演会、ワークショップ、企画展示が行われており、興味深い内容も多く評価したい。市制70周年の記念講演会もよかったです。また、図書館ガイドツアー、図書館員体験ツアー、本探しのパートナー、そして図書館探検隊など参加してみたくなる企画がありよかったです。今後もタイムリーで魅力的なイベントを企画してもらいたい。 <p>府中市立図書館の特徴は、学習室を設け多くの学習席を確保している点である。長年続いている事業であり恩恵を受けた人も多い。オンライン予約も定着してきている。多くの利用者が使える学習室の設置を高く評価したい。</p> <p>研究個室の利用も増えており、図書館を“場”として活用することが定着してきている。貸出冊数等が減少している中、“場”としての図書館の役割が大きくなっていると感じる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の観点から、趣味や実益など学びを奨励するために、年代に合わせて多種多様な講座や講演を設定してはどうか。時事的な問題に即応するテーマ（高齢者・福祉・自然環境・水害・防災など）の情報を分かり易くする展示コーナーなども如何か。 講座については市民の意識を刺激し、学習の場に容易に参加できる機会があることが望ましい。その機会の設定と目的を積極的に広報すべきである。
(8) 児童サービス	<ul style="list-style-type: none"> 今後もおはなし会を地区図書館と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができると思います。 児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子 DE 読書タイム」も子育て支援につながる取り組みとして評価したい。昨年度同様に子ども読書活動推進委員会の取り組みも適切に行われている。 子供と本を結ぶための魅力ある取組に期待している。小学校の府教研図書館部でも、児童と本の結びつきを強めたい思いは同様である。連携ができるとよい。
(9) ヤングアダルトサービス	<ul style="list-style-type: none"> "中高生の減少などが課題として挙げられているが、一生に関わる自身の進路に向けて、勉強し、重大な選択の時期に必要な情報がほしいだろう世代に、果たしてヤングアダルトなる小説などに興味があるだろうか。実用的なニーズをキャッチするならば、赤本をたくさんおいてほしい。図書館が勤勉な学生であふれかえることだろう。どうせ置くならば、国内の大学情報、海外大学進学情報も置いて、充実させてほしい。府中市の提携都市の大学など情報も配架して、相互交流を行い府中市に貢献することで、市内や、国内に留まらない国際人の育成の土壌も目指してほしい。 センター広告を入れた読書通帳を導入して、本質的にアプローチすることも有効だと考える。 市制 70 周年記念謎解きイベントは、ヤングアダルト世代にとって関心を呼びイベントで、参加者も多かった。図書館を再認識してもらう取り組みになったと思う。とかく図書館離れが起きる世代であり、彼らの感性にあった取り組みを図書館が提供することの意義は大きい。 今後も中学・高等学校との協働事業を拡大し、彼らの感性に訴える取り組みを行ってもらいたい。 成人年齢が下がったことで、成人の意義を学ぶ場を広報し増やしてはどうか。若者の投票率が問題になっている今日、選

	<p>挙が自分自身の日々の暮らしにどのように関わるのかを知るための展示や講座を提供してはどうか。</p> <p>※ 図書館の役割とは異なるが、現代の政治や社会状況などについても 青少年が学ぶ機会を感じさせる情報発信があってもよいと思う。</p> <p>子どもたちが、書籍から学ぶこと、画面で学ぶこととの違いが分かるように、情報の質や量の差を実感できる場を設けてみてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学・高校生世代は、スマホを持っている人が多いので、電子図書館を活用してスマホから読書へ誘うような働きかけも併用してはいかがだろうか。 ・ 「ヤングアダルト」が図書館用語であることは尊重しますが、利用者向けに提示する場合では話は違います。高校生などに響くような表現が必要です(「ヤングアダルト」が外せないならば、併記しても良い)。また、図書の推薦は往々にして読書の押しつけ的印象になりますので、若い頃の読書体験談や思い出を学校の先生から募ったり、著名人のエッセイから引用するなどして、若い頃の読書がどれだけ心の栄養源となるのかを伝える試みが欲しいところです。 ・ 近隣の中学校の司書さんに、小学校の府教研図書館部の研修の講師をお願いしたことがある。中学校の図書室の本の種類、見せ方、本の薦め方などを学んだ。その経験を本好きな6年生児童に伝え、中学校への進学を楽しみに待った経験がある。入学、進学に向けて、隣の学校の図書室に目を向けることは効果的であると考える。
(10) 学校支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年のとおり、“まちたんけん”や社会科見学、また、各図書館での職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして“小学校出張おはなし会”や“小学校出張ブックトーク”が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。 ・ 全国学力・学習状況調査の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が減っている中で、学校図書館・地域図書館の果たす役割は大きい。引き続き、学校司書対象に魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちたんけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでほしい。 ・ 「ふちゅう電子図書館と学校との連携を推進する。」を評価する。積極的に行って欲しい。

	<ul style="list-style-type: none"> 電子図書館の学校との連携も始まり、紙の書籍と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸し出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。 <p>小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進している。</p> <p>電子図書の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。</p> <p>紙の本もデジタルの本も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導を心掛けている。</p>
(11) 視聴覚サービス	<ul style="list-style-type: none"> “各家庭などのスマホやタブレット、PCでの YouTube 視聴、アマプラ、ネットフリックスの普及により代替えされてしまってはいないだろうか。視聴者のニーズは決められたものを見る、あるものを視聴する（テレビ等）ニーズから、興味のあるものを自由に視聴する（YouTube 等）に移り変わっており、両者を選択的に視聴している。維持コストを考えると大幅な削減も必要ではないだろうか。” 映写会を定例化して集客や興味をもってもらう。 昨年度に比べると視聴覚資料の貸出点数も視聴回数も減少している。長年、視聴覚資料の充実に努め、その所蔵数も他の図書館に比べれば多いが、媒体が古くなっていることはないかと危惧している。劣化の著しい資料への対応も行われているが、それでも新鮮味がない蔵書構成になっていないか、その点が気になる。 <p>なお、時代の変化に伴い、視聴覚資料提供サービスの今後についての検討が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視聴覚資料の所蔵数が着実に増加していることは評価できます。その一方で年1回の「映写会」というのはどのような意義があるのでしょうか？ 年1回が望ましいのであればその説明が欲しいところです。
(12) 情報発信サービス	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス件数は減っている。また、中央図書館でのオンラインデータベースの利用数も減っている。有効なオンラインデータベースもあり、使い方講座などをしながら周知に努めてもらいたい。 <p>電子書籍の利用は増加傾向にあり、その点は評価したい。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実に努め、利用の拡大を図ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページや図書館だより等による広報活動について、引き続き積極的に取り組んでほしい。また、ホームページ、図書館共に活字中心のデザインのように感じる。写真等によりイベント等の様子が分かるようにするなど、視覚的に市民の方に読んでもらえる内容にしてもらいたい。市民や府中市に関係する著名人等、様々な世代、ジャンルのおすすめ本を紹介する

	<p>内容をホームページや図書館だよりに掲載するなど、本の魅力を発信するのもよいと考える。</p> <p>インターネット席利用者数が増加しているが、現状で十分なサービスが提供できているかが気になる。必要に応じて、席数を増やすなど市民サービスの向上に取り組んでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非来館型のサービス提供は時代の趨勢であるが、来館して学ぶこととの差を理解する施策も必要である。来館者が共通の課題で学ぶ場として、同好の士が交わる場を設ける、人と人との交流が拡大し相互に研鑽する場としての機能も検討して良いのではないか。 ・ 電子図書館の充実を望む。 ・ 電子図書館のさらなる周知のために、館外（例えば、府中駅前や市役所のロビーなど）に出張しての利用体験会などを実施してはいかがだろうか。 ・ データベースの利用者数の減少（829⇒521）は気になります。有効なリサーチ手法がうまく認知されていないのかも知れません。その意味では「市民のニーズに応じたデータベースを提供できた」と言う評価は不思議ですので説明が必要でしょう。レファレンス講座と連携する形での活用推進プログラムが必要と思われます。 ・ 地区図書館のイベントは、日頃から図書館を利用する本の好きな児童は知っているのかもしれない。イベントの情報を知るために、地区図書館の職員の方と、学校の図書関係者が顔を合わせる機会がほしい。
(13) 地域情報の 提供サービ ス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8ヵ年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取り組みとして他の図書館のモデルになる事業である。 ・ また、子ども向けの「こども府中はかせ」の改稿・製本が行われた。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した取り組みをお願いしたい。 ・ 地域資料のデジタル化について、継続していただき、学校や家庭など、様々な場所・機会に閲覧できるようになると大変便利である。デジタル化に当たっては、著作権に留意する必要があるが、資料作成の段階でデジタル化を含めて許諾を得るようになるのがよいと考える。 <p>『新府中市史』刊行もされ、さらなるデジタル化も含め、地域資料をより利用しやすくして欲しい。</p>

	<p>また、観光プロモーション課や府中観光協会の「SDGs 探究学習プログラム」と連携なども視野に入れ、図書館を情報拠点として、府中市の魅力を市内外にアピールして欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料のデジタル化の推進、『新 府中市史』の PR の取り組みに期待しています。 ・ 地域資料の収集とデジタル化において着実な成果を残しつつあるのは素晴らしい。他方で、このような地域資料の開示や利用についての啓発的活動も望みたい。例えば、わがまち(自治会・町会)の歴史や由来についてのモデル展示とかも有効だろう。
(14) ボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税などの税金や毎年社会保険料も上がり続ける中で、実質賃金は下がり続けて、物価は 30 年前の 2 倍、貧困率は G7 中で最低ランクです。働けば働くほど損をする現役世代にボランティアを強いることは、偽善的だと気づいている人も増えているのではないだろうか。発想を転換して、福祉関連企業のアピールの場として、無料公演をやってもらったほうが、情報の質も高く、参加者のメリットにも繋がり、図書館サービス利用者である消費者の知的好奇心に訴求したものが作れるのではないかと考える。 ・ 毎年、読み聞かせ講習会の募集を行っていますが、非常に狭き門で何年も抽選に漏れている方もいます。応募数をオープンにしてほしい。 ・ 他市でボランティアを経験されている方は講座を受けなくてもボランティアの登録が出来る様にしてほしい。 ・ 多くのボランティアの皆さんに協力をしていただき、さまざまなサービスを展開している。その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキルの向上に向けた取り組みも適宜行われている。宅配ボランティアの活動範囲のズレの問題が起きているようであるが、せっかくのボランティア活動である。ミスマッチのないような方策を考え、多くのボランティアの方に関わってもらいたい。 ・ 本の読み聞かせは、児童にとって語彙力や想像力を育て、情緒の安定や集中力を身に付くなど、子供の発達に効果的な取組である。市民向けに読み聞かせの取組等について積極的に発信し、市民の方の理解を図るとともに、新たなボランティアの人材の確保や、専門性の向上に引き続き取り組んでいただきたい。 ・ 宅配ボランティアの活動が知られれば、市民が図書館に目を向ける動機づけになる。利用者が増加することを期待する。また、ボランティアの募集説明会を増加することは現状を広報するのに効果があると思われる。資質の向上と利用拡充を

	<p>図ることも。地区図書館における宅配サービスは、図書の利用ばかりではなく地域の見回り効果なども期待出来る。地域の交流拡大の効果ももたらすと思われるので大いに推進してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代がボランティアに参加しやすくなるように、講座の開講日や時間帯、方法（オンラインの併用等）の検討を進めていただきたい。そもそも、講座の開催情報自体が市民に十分に周知されているとは言い難いように思うので、周知方法も工夫してほしい。 ・ ボランティアの皆様が学校に出向いて読み聞かせをしてくださるような活動があるとよい。
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館について 「市民の情報拠点となる図書館」を実現するサービスが (11) 視聴覚サービス (12) 情報発信サービス であるというのには大きな違和感を感じます。(11)はデジタルコンテンツの貸出であり、(12)は図書館が提供する情報の電子化の話です。いずれも「市民の情報拠点」という役割とはストレートには結びつきません。 これらを別の役割(基本方針)の中に分類しなおすか、あるいは、「情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」という役割(基本方針)名を変更する必要があります。ただ、「市民の情報拠点となる図書館」という役割設定は、生涯学習との関連でも極めて重要と思われますので、これを残して、それを実現する機能を明らかにすべきだろうと思われます。その際、「情報化社会」とは IT の利活用が進む社会であり、市民の情報拠点と言う場合には、市民が主体的に IT を問題解決に使うための拠点と理解されるべきでしょう。そうすると、考えられる機能としては、たとえば、 1 調べもの支援、情報源の多様化と提示 2 デジタル情報へのアクセス支援 3 生涯学習支援 4 地域化・国際化の支援 などが考えられますが、他の施策(特にレンタルサービス)と重なる部分があり調整が必要かも知れません。

資料 1

総合所見	<ul style="list-style-type: none">これまでの取り組みの成果を継承し、着実に業務を展開しているという印象です。ただ、依然として「生涯学習」の拠点としての「役割」にふさわしい「機能」の設定ないし運用において見直しや強化が必要であると思われます。
------	---